

# 情熱と温かいもてなしに 包まれたブラジル滞在 — 雪ダルマプロジェクト同行取材 —

日本人ブラジル移民100周年を記念して、雪ダルマを贈るプロジェクトを昨年11月に立ち上げ3ヶ月。雪が降らない地に無事到着した雪ダルマは2月10日、サンパウロ市のブラジル北海道協会内の特設会場に高さ2メートル、重さ1・3トンの巨大な姿を表し現地では大きな反響を呼びました。

## ブラジルの地を踏んで

時差が13時間、北半球から南半球へ。日本から最も遠い国、ブラジルに雪ダルマプロジェクトのメンバー5名が出国したのは1月31日でした。ニューヨークを経由してサンパウロ・グアルーリョス国際空港に到着し、ブラジル北海道協会の人たちと合流しました。

空港からホテルまでの車窓から見た市内は車が多く走り、西洋風の建物が多く、高層ビルが建ち並んでおり、私たちが予想していたイメージと大きく異なり、サンパウロ市街は近代的な町並みでした。今から100年前の1908年、新天地ブラジルに791人の夢と希望を乗せて神戸港から出港し移民した日本人が、多くの苦勞と様々な逆境を乗り越え今日の日本人移民社会を築きあげた。その地に私たちは今立っています。

ブラジルには現在約150万人とも言われる日系人が住んでいます。その多くがブラジルの国に慣れ親しみ生活する中で、今でもその土地の風土や文化を取り入れながらも、日本人としての誇りや精神を失わない人たちも数多くいました。

北海道協会の会館の中では剣道やダンスなどが行われ日本ブームの色が強く残っています。

北海道にも、"しょっぱい川"と呼ばれた津軽海峡を渡った本州の人たちが入植して切り開いてきた歴史がありますが、スケールの違いこそあれ、住み慣れた土地を離れ新天地を目指した人たちに通じるものがあるのではないのでしょうか。

## 活躍する日本人、日系人

農産物の安い価格、豊かな資源に恵まれたブラジルで成功した日本人や日系人が多く

いました。

北海道協会副会長で、青年組織ヒグマ会の会員の平野オストンさんもその一人。母方の祖母が旭川出身で、社交的な人柄で流暢な日本語で語ってくれました。現在金融コンサルタント会社など2社を経営し、会員からの人望も厚いとのこと。

出発の前日に紹介を受けた香川県出身の神内良一さんは日伯友好病院への支援や県人会館の建設などに尽くされ、日系人をはじめ多くのブラジル人から尊敬されています。このほか、昭和天皇のいと



サンパウロで開催されたカーニバル



市内にはヨーロッパ風建物が多く見られる



スーパーではメロンが1kg約153円で売られていた。